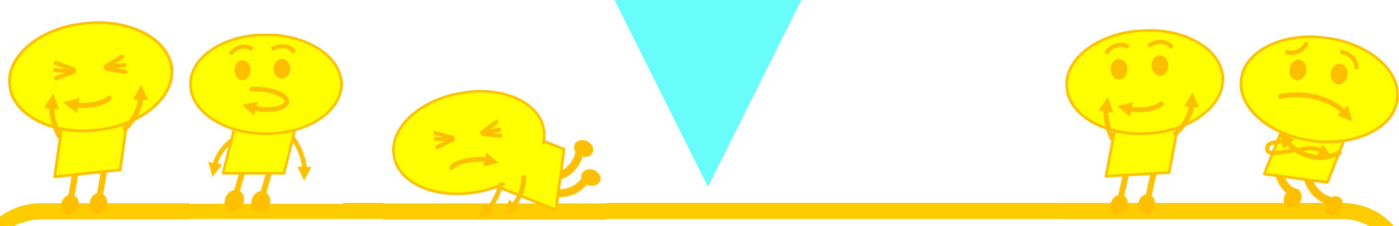


平成27～28年度

「主体的な学習」の在り方を見直すための一研究



「主体的な学習」のための 授業づくり チェックシート



子どもの「主体的な学習」を授業の中で実現したい！
でも、「主体的な学習」ってそもそもどんな学習？ どうすればそれに近づけるの？

このチェックシートは、
子どもの学習が「主体的」になるための授業改善の視点として提案するものです。
授業を構想したり、振り返ったりする際に活用していただくことで、
より生き生きと学習する子どもの姿が見られることを願っています。

学 習 課 題

(1) 子どもの興味・関心を生かした学習課題を設定する



好奇心

課題設定のきっかけ

- ① 子ども自身の課題として必要感のある課題にするなど学習の動機付けを工夫する
- ② 生活の中の身近なことを取り上げるなど子どもの日常生活との関連を図った学習課題を設定する
- ③ 子どものこれまでの考えとの「ずれ」や「隔たり」を学習課題の設定に利用する
- ④ 対象への「あこがれ」や「可能性」を感じさせる工夫をし、子どもの願いや気付きから学習課題を設定する

既習事項とのつながり

- ⑤ 子どもの経験や既習事項を踏まえ、子どもの思いや願い、考えなどをもとに学習課題を設定する

『授業改善のヒントの一例』

教師の声掛け

- ☞ 普段の生活や子どもが疑問に思うことから学習課題を想起できるようにする

教材・教具・学習ツール

- ☞ 子どもの興味・関心について、授業外でもリサーチしておく
- ☞ 既習事項を十分に捉え、子どもが興味や関心を持てるような掲示をしておく

環境・場の設定

- ☞ 子ども同士が普段の生活を振り返り、疑問に思っていることを共有できるような活動場面を設定し、課題を発見させる

(2) 子どもが自分で方向性を持ち、学びたいと思えるような学習課題を設定する

方向付け

社会や将来の生活とのつながり

- ⑥ 学んでいることが社会でどのように生かされているのかつながりがわかる学習課題を設定する
- ⑦ 自分の事として考えられるよう、子どもが現在及び将来の生活や社会とのつながりを意識できるような学習課題を設定する
- ⑧ 自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って新たな課題を設定できるようにする

※キャリア形成… キャリアを形づくること

※キ ャ リ ア… 人が生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見いだしていく連なりや積み重ね

『授業改善のヒントの一例』

教師の声掛け

- ☞ 学習課題を踏まえ、自分たちを取り巻く環境や生活と結びつけて考えられるような発問をする
- ☞ 学習課題を克服することで自分の困り感の解決に向かうよう、課題と自分自身とのつながりがわかるようにする
- ☞ 別の課題でできたことや解決策が本課題に生かすことができることを伝える

環境・場の設定

- ☞ これからの展望が持てるように、先輩や先人たちの学びを知る機会を設定する

(3) 様々な知識・技能を総合して使いこなす(活用する)ことで学習が深まるような学習課題を設定する

積極的な行動	<p>他教科等の学びやこれまでの経験を活用</p> <p><input type="checkbox"/> ⑨ 課題を解決するために既習の知識や技能、<u>経験、他教科等の学びなどを活用する必要感のある学習課題を設定する</u></p> <p><input type="checkbox"/> ⑩ <u>自分の考えを表現する必要感のある学習課題を設定する</u></p>	<p>『授業改善のヒントの一例』</p> <p>教師の声掛け</p> <p>☞ 「これまでやって、ここまでできた」という自己肯定感を持つことができるような声掛けをする</p> <p>教材・教具・学習ツール</p> <p>☞ 収集した情報の蓄積から、これまでの課題をまとめ、課題解決に向けて何をすればよいか方向性を持つようなワークシートを作成し記入する</p> <p>☞ 情報を整理して自分の考えを構築するような課題を設定する</p> <p>☞ 図やグラフ、制作、イラストマップ等を用いて情報を整理する</p> <p>☞ 言語化した情報をカードにして整理したり、出来事を時間軸で並べたり、マップなどの空間軸に整理したりする</p> <p>☞ 整理した情報について、比べる、分類する、序列化する、類推する、関連づける、因果関係から考える、多面的・多角的視点で考える等の視点を与える</p> <p>環境・場の設定</p> <p>☞ 自分で意見をまとめる時間を設定し、グループで意見交換しながら自分の方向性を決定する</p>
---------------	--	---

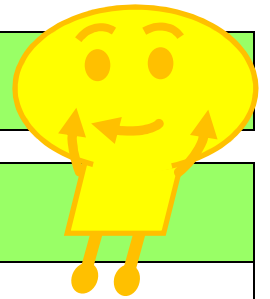
(4) 子どもの興味・関心やこれまでの学習の振り返りをもとに子どもが自分で学習課題を設定する

決定力	<p>子どもの意思の尊重</p> <p><input type="checkbox"/> ⑪ 自然の事物・現象や社会の問題、自己の課題から問題を見だし、<u>子どもが自らの意思で学習課題を設定する</u></p> <p>これまでの学習をもとに</p> <p><input type="checkbox"/> ⑫ <u>これまでの学習の振り返りから、自分が探究したい学習課題を子ども自身が設定する</u></p>	<p>『授業改善のヒントの一例』</p> <p>教師の声掛け</p> <p>☞ 身の回りの事物・現象に接し、その中で得た気付きから疑問を形成するような発問をする</p> <p>環境・場の設定</p> <p>☞ これまでの学習を振り返り、子ども同士が疑問に思っていることを共有できるような活動場面を設定する</p>
------------	---	--

(5) 子どもが獲得した学習内容を整理し、表現するための学習課題を設定する

自己表現	<p>表現手段の設定</p> <p><input type="checkbox"/> ⑬ 子どもが<u>自分に合った学習方法や表現手段</u>を知り、最も適切な方法や手段を設定する</p> <p>目的の自覚化</p> <p><input type="checkbox"/> ⑭ 子どもに<u>表現活動（書く、話す、まとめる、図に表す等）の目的を明確に持たせる</u></p>	<p>『授業改善のヒントの一例』</p> <p>教師の声掛け</p> <p>☞ 表現活動をするためのめあてを子どもと一緒に設定する</p> <p>教材・教具・学習ツール</p> <p>☞ 多様な表現手段が選択できるようなパフォーマンスの材料を準備したり、掲示したりする</p>
-------------	---	--

学 習 過 程



(6) 子どもの興味・関心を生かした自主的・自発的な学習活動を設定する

好奇心	<p>自分で解決できる</p> <p>□15 <u>これまでの既習事項を生かせるように少し頑張ればできる課題を設定する</u></p> <p>□16 <u>スモールステップを踏んでいけばねらいを達成できるような学習活動を設定する</u></p>	<p>『授業改善のヒントの一例』</p> <p>教師の声掛け</p> <p>☞ 既習事項を十分に捉え、子どもが興味や関心を持っていることと、学習のねらいを結び付けて考えられるような発問をする</p> <p>教材・教具・学習ツール</p> <p>☞ これまでの学習の軌跡がわかるような視覚的支援を行う</p> <p>☞ 思考ツールをつかって自分たちで課題を広げたり、分類したり、構造化したり、焦点化したりさせる</p> <p>環境・場の設定</p> <p>☞ 途中経過を自由に共有できるようなグループ活動を取り入れる</p> <p>☞ 個々の意見が反映されるようなグループ活動等を取り入れる</p> <p>☞ 「視覚」「聴覚」「運動感覚」を意識し、多様な感覚を用いた活動を取り入れる</p>
	<p>課題を多面的に捉える</p> <p>□17 <u>課題解決のためにどのように情報を集めていったらよいか考える活動を設定する</u></p> <p>□18 <u>課題に対する魅力や特性などにも着目して整理させ、課題を様々な角度から捉えられるような学習活動を設定する</u></p>	
	<p>選択できる機会をつくる</p> <p>□19 <u>子どもが自ら課題解決の方法を選択できる学習活動を設定する</u></p>	
	<p>どういうゴールにするか子どもが考える</p> <p>□20 <u>子どもが課題についてどのようなゴールにするのか、どうなっていたら課題が解決したといえるのかを粘り強く考える学習活動を設定する</u></p>	

(7) 学習の方向性を明らかにしたり、学習したことを振り返ったりする学習活動を設定する

方向付け	<p>ねらい達成の手立て</p> <p>□21 <u>子どもが本時のねらいを理解するための手立てを教師が持つ</u></p>	<p>『授業改善のヒントの一例』</p> <p>教師の声掛け</p> <p>☞ 単なる賞賛だけでなく、個別の進捗状況を把握し、目指す方向を子ども自らが確認し軌道修正できるような声掛けをする</p> <p>教材・教具・学習ツール</p> <p>☞ 自らの学習の進捗状況が見えるワークシート・掲示などを工夫する</p> <p>☞ 板書やワークシートなど、課題や活動内容を視覚的に確認できるようにしておく</p> <p>☞ 子ども全員でクラスの到達目標を決める</p> <p>☞ 子どもが自らの活動を点検・確認し、改善・調整できるように時間的な余裕を保障したり、ワークシートや振り返りシートを作成したりする</p> <p>環境・場の設定</p> <p>☞ ある程度のまとまりごとにグループで共有する</p> <p>☞ 自分が理解できたことを友人に伝える</p>
	<p>ゴールまでの道筋を明確にさせる</p> <p>□22 <u>解決への見通しを明らかにし、ゴールと、それに至るまでの道筋を描きやすくするような学習活動を設定する</u></p> <p>□23 <u>各教科等の見方・考え方を意識して学習活動を俯瞰し、子ども自身で見直す活動を設定する</u></p> <p>□24 <u>自らの学習活動が他の学習や将来の生活や社会につながっていることが自覚できるような学習活動を設定する</u></p> <p>□25 <u>学習の過程や結果を振り返る活動を設定する</u></p>	
	<p>子どもが立てる到達目標</p> <p>□26 <u>子ども自身が到達目標を設定する</u></p>	

(8) 対象と直接関わる学習活動を設定する

積極的な行動	<p>活動の必然性</p> <p>□27 <u>実際の生活で生かす場面を設定することで、学習活動を行う必要が感じられるようにする</u></p> <p>□28 <u>観察・実験・調査等の結果を分析・解釈して仮説の妥当性を検討したり、全体を振り返って改善策を考えたりする学習場面を設けることで対象と直接関わる必要が感じられるようにする</u></p> <p>目的の自覚化</p> <p>□29 <u>子どもが目的を自覚して活動できるよう実験・実習・調査・観察・見学・体験・インタビュー等を設定する</u></p>	<p>『授業改善のヒントの一例』</p> <p>教師の声掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 実験や体験などからどんな情報を収集する必要があるのか、視点を絞ったり、全体で共有したりするような声掛けをする ☞ 学習で獲得したことを、数値化したり、言語化したりして次の学習に活かせるようにする <p>教材・教具・学習ツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 課題解決に向けた情報の蓄積としての実験、実習、調査、観察、見学、体験 <p>環境・場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ グループやペア活動により他者の意見を聞く・話す
---------------	---	---

(9) 対象と間接的に関わる学習活動を設定する

積極的な行動	<p>活動の必然性</p> <p>□30 <u>子どもが、自分の課題を解決するために、学校図書館や情報通信ネットワーク等を活用し、情報収集する学習活動を設定する</u></p> <p>□31 <u>学びの過程で学習の変化の様子を見直し、自分の考えを深めるために学校図書館や情報通信ネットワーク等を活用する学習活動を設定する</u></p> <p>目的の自覚化</p> <p>□32 <u>子どもが目的を自覚して活動できるよう学校図書館や情報通信ネットワーク等を活用する学習活動を設定する</u></p>	<p>『授業改善のヒントの一例』</p> <p>教師の声掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 何を調べるのか、何のために調べるのか、活動途中にも軌道修正できるような声掛けをする <p>教材・教具・学習ツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 学校図書館・情報通信ネットワーク等の活用 ☞ 学びの過程でICTを活用し、観察・実験の際に変化の様子を録画したものを何度か再生して確認することにより、結果を根拠として自分の考えを深めるようにタブレット端末等を用いる <p>環境・場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 調べたいことがすぐに調べられるような環境設定をする（調べる手段を習得させる） ☞ 自主的な学習を深める場としての学校図書館の整備充実などの取組を行う
---------------	---	--

(10) 基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自ら課題を解決する問題解決的な学習活動を設定する

決定力	<p>問題解決的な学習活動</p> <p>□33 <u>子どもが常に知的好奇心を持ち、身の回りの事物・現象に接する中で得た気付きから疑問を形成し、問題を解決するような学習活動を設定する</u></p> <p>□34 <u>具体的な知識を総合して収集した情報を比較したり、分類したり、因果関係を捉える等の視点を示し、子どもの思考する活動を促す</u></p> <p>確認テストの利用</p> <p>□35 <u>確認テスト等を通して、子ども自身が新たな課題を見出し、学習活動に反映させるようにする</u></p>	<p>『授業改善のヒントの一例』</p> <p>教材・教具・学習ツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 新たな課題を見出し、これまでの情報収集を基に解決できるような定期テスト等を行う ☞ 様々な個別のニーズに対応できるよう、教材研究や個に応じた支援を準備しておく <p>環境・場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ これまで身に付けた知識・技能や資質・能力の自覚を促し、共有できるような発表場面やグループ活動を取り入れる
------------	---	--

(11) 他者との対話を通して自らの考えを明確にし、自らを表現し、互いの考えを共有する学習活動を設定する

自己表現	<p>表現活動の設定</p> <p>□36 <u>自分の思いや考え、学んだことを表現する学習活動を設定する</u></p> <p>多様な視点による気づき・深まり</p> <p>□37 <u>他者の意見を聞いて、自分の意見と比較したり、練り直したりする学習活動を設定する</u></p> <p>□38 <u>互いの考えを出し合って、よりよい考えを作る話し合いの場を設定する</u></p>	<p>『授業改善のヒントの一例』</p> <p>教師の声掛け</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 多様な考えを持つ他者を相互に認め合い異なる意見や立場を尊重し、共によりよく生きようという意欲などを高めるような声掛けをする ☞ 互いの意見を共有できるよう、子どもの発言と発言をつなぐ ☞ 子どもの協同技能を育てるために、全体にフィードバックして模範を示したり、考えるための補助発問をしたり、発言を教師が拾ってつなげたりする <p>教材・教具・学習ツール</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 互いの意見を分類・整理・構造化するために板書などを工夫する <p>環境・場の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ グループやペア活動により他者の意見を聞いたり話したりできる学習活動を設定する ☞ 教え合える環境を設定し学んだことを発表する場を設定する ☞ コミュニケーションをする目的・場面・状況・テーマ等を明確に設定する
-------------	---	--

学 習 評 価



(12) 子どもが新たな疑問や興味・関心を持つことができるよう工夫した評価を行う

好奇心	次につなげるために… □③⑨ <u>学んだことの意味や価値を自覚できるような振り返りができるようにする</u>	『授業改善のヒントの一例』 教師の声掛け ☞ 課題を焦点化し、一定のまとまりの中で学んだことや新たな疑問や課題などを振り返るような声掛けをする ☞ 授業中の子どもの発言や行動を把握し、子どもの言葉で授業をまとめるような声掛けをする
	新たな問い・疑問を見出す □④⑩ 子どもが自らの <u>学習を振り返り、新たな疑問を持つ活動を設定する</u>	教材・教具・学習ツール ☞ これまでの学習の軌跡がわかるような掲示や板書を行う ☞ 一定のまとまりごとに「自分ができたこと」や「友人から学んだこと」をワークシートにまとめる ☞ ルーブリック指標などを用いた振り返りを行う 環境・場の設定 ☞ 自己確認と他者理解のために、ワークシートなどにまとめたことを発表し、共有する場面を設定する

(13) 子どもが自らの活動を点検・確認し、改善・調整できるよう工夫した評価を行う

方向付け	点検・確認、改善・調整 □④① 子どもが <u>進め方を見直しながら学習を進め、その過程を評価して新たな学習につなげる</u> といった、学習に関する自己調整を行う活動を設定する	『授業改善のヒントの一例』 教師の声掛け ☞ 子ども自身が自分の学びや変容を見取り自分の学びを自覚できるように、これまでを振り返り、できたことを全体で共有できるような声掛けをする
	自身の学びや変容の振り返り □④② 子ども自身が自分の <u>学びや変容を見取り、自分の学びを自覚する</u> ような振り返りができるようにする（「自分の意見を言えたか」「意見が違った時にどう乗り越えたのか」「他者の意見を聞いて、自分の意見が変わったか」等）	教材・教具・学習ツール ☞ 子どもが自らの活動を点検・確認し、改善・調整できるようなワークシートや振り返りシートを作成する ☞ 子ども自らが設定した到達目標に対して自己評価できるシートを用いる ☞ 作品などの途中経過を撮影し、これまでの学びを確認できるようにする
	目標に照らし合わせた自己評価 □④③ 以前の課題と比べて <u>伸びが分かるような観点</u> で自己評価できるようにする □④④ 子ども自身が設定した到達目標により自己評価できるようにする	環境・場の設定 ☞ 学びを自己確認するために言語化し、グループ活動やペア活動内で発表する ☞ 自らの学習活動をグループで共有することができるような発表場面を設定する

(14) 子どもの意志的な側面を捉えるよう工夫した評価を行う

積極的な行動	意思的側面の捉え □④⑤ 学習を振り返ったり、見直したりしながら、 <u>粘り強く知識・技能を獲得したり、思考・判断・表現しようとしたりしている姿</u> を評価する □④⑥ ノートやワークシートの工夫を行ったり、自己評価表を用いたりして、 <u>子どもの思考の過程</u> を見取る評価を行う	『授業改善のヒントの一例』 教材・教具・学習ツール ☞ 座席表やチェックリスト等を利用した子どもの活動の記録を取りため、子どもの意思的側面の変容を見る ☞ 考えの根拠・判断基準・自己調整の過程等がわかるようなワークシートや自己評価表を作成する
--------	--	---

(15) 子どもが自らの活動の内容や結果から目標の達成度を評価できるよう工夫した評価を行う

決定力	自身の成長の振り返り □④⑦ 自分自身への気付きや、自分自身の成長に気付き、 <u>自分は更に成長していけるという期待や意欲を高めることができるような振り返り</u> を行う 他者評価を生かした振り返り □④⑧ 課題に即して、 <u>他者評価を行い、そこから自分の学習過程を振り返り、自らの振り返りを意味付けしたり、獲得された知識・技能や育成された資質・能力を自覚したりしながら相互評価を行う振り返り</u> をする	『授業改善のヒントの一例』 教師の声掛け ☞ 何を決定し、何をしようとしているのか、子どもの行動を価値付けるような声掛けをする 教材・教具・学習ツール ☞ 子どもが自らの学習過程全体を振り返って自己の成長を把握できるような記録や作品などの蓄積を行う（自己評価表・ポートフォリオ・掲示） 環境・場の設定 ☞ 学習活動を自ら振り返り意味付けしたり、獲得された知識・技能や育成された資質・能力を自覚したり、共有したりする発表場面やグループ活動を取り入れる
-----	---	---

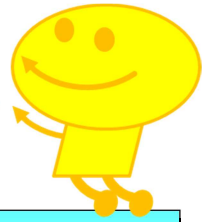
(16) 子どもが知識・技能を総合して使いこなしているかどうかを見取ることができるよう工夫した評価を行う

自己表現	知識・技能を総合して使いこなす □④⑨ パフォーマンス評価等（レポート、作品、実演、口頭発表、壁新聞等）のように、 <u>知識・技能を総合して結果を形にする学習評価</u> を設定する 他者評価を生かした振り返り □⑤⑩ 他者に伝える活動を取り入れ、 <u>他者からの評価をふまえ、新たなパフォーマンスに生かすような評価</u> を行う	『授業改善のヒントの一例』 教師の声掛け ☞ 子どものパフォーマンスの価値付けと、今後に向けた別のパフォーマンスの提案を行う 環境・場の設定 ☞ ポスターセッションやプレゼンテーションなど、発表の場を設定する ☞ 他者評価が得られる場面を設定する
------	---	--



「主体的な学習」のための授業づくりチェックシートの使い方

- このシートは、【学習課題】【学習過程】【学習評価】で構成しており、さらに、要素ごとに下記の(1)～(16)の取組が示されています。
- 各ページには、取組の視点にそってチェック項目を例示しています。
- 教科や単元・題材によっては、該当しにくい項目もあります。



要素	項目	学習課題	学習過程	学習評価
好奇心 (自らが関心を持っていることをやってみる)		(1) 子どもの興味・関心を生かした学習課題を設定する	(6) 子どもの興味・関心を生かした自主的・自発的な学習活動を設定する	(12) 子どもが新たな疑問や興味・関心を持つことができるよう工夫した評価を行う
方向付け (自分の中での方向性を持つ)		(2) 子どもが自分で方向性を持ち、学びたいと思えるような学習課題を設定する	(7) 学習の方向性を明らかにしたり、学習したことを振り返ったりする学習活動を設定する	(13) 子どもが自らの活動を点検・確認し、改善・調整できるよう工夫した評価を行う
積極的な行動 (自らが主体となって積極性を強調する)		(3) 様々な知識・技能を総合して使いこなす(活用する)ことで学習が深まるような学習課題を設定する	(8) 対象と直接関わる学習活動を設定する (9) 対象と間接的に関わる学習活動を設定する	(14) 子どもの意志的な側面を捉えるよう工夫した評価を行う
決定力 (自分が決める)		(4) 子どもの興味・関心やこれまでの学習の振り返りをもとに子どもが自分で学習課題を設定する	(10) 基礎的・基本的な知識・技能を活用し、自ら課題を解決する問題解決的な学習活動を設定する	(15) 子どもが自らの活動の内容や結果から目標の達成度を評価できるよう工夫した評価を行う
自己表現 (自分を表現する)		(5) 子どもが獲得した学習内容を整理し、表現するための学習課題を設定する	(11) 他者との対話を通して自らの考えを明確にし、自らを表現し、互いの考えを共有する学習活動を設定する	(16) 子どもが知識・技能を総合して使いこなしているかどうかを見取ることができるよう工夫した評価を行う

◆◆◆チェックシートの効果的な活用例◆◆◆

授業の前に・・・

- これから取り組もうとする授業(単元や題材)を主体的な学習にしていくために活用してみましょう。
- 主体的な学習を促すために、特に重視していきたいと思う取組(1)～(16)を参考に、授業構想に役立ててください。

授業のあとで・・・

- 普段行っている授業が、主体的な授業になっているかを振り返ってみましょう。
- それぞれの課題に応じて、取組(1)～(16)の中から選んでチェックを行いましょう。
- 授業者自身の「主体的な学習」への取組についての傾向を把握したり、手立てを考えたりしてみましょう。

◆◆ ～さらに発展させて～ ◆◆

- ⇒ 授業力の現状や子どもの実態によって、一部を印刷して使用したり、項目の追加・加工・重点化を図ったりするなどして、今後の授業改善に活用してください。
- ⇒ 個人や学校で手立てを新たに考えていくと、より子どもの実態にあったものになると思います。

- ◇【チェックが入る・入らない】理由や手立てについて、ぜひ同僚と検討してみてください。
- ◇ 校内研修で活用するなど、「主体的な学習をする子どもの具体的な姿」を考える機会にしてください。

本シートが『主体的な学習』への授業改善につながることを期待しています！